

事務事業名	排水設備事業					☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 02	緑豊かな環境と共生するまちづくり				所属部	水道局	所属課	上下水道課
施策名	08	水環境の保全				所属係	管理工務班	課長名	森 章礼
基本事業名	25	水質の浄化				担当者名	大塚裕貴	電話番号 (内線)	096-248-1232 1177
予算科目	会計 50	款 01	項 01	目 01	事業	法令根拠	下水道法		
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 S52 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) ・排水設備責任技術者の登録審査及び管理を行い、専門的な知識と技術者が従事する指定工事店で排水設備の工事を施工することにより、誤接続をなくし処理場の機能を軽減するとともに、汚水が河川等へ流入しないよう、水環境の保全を図る。 (事務内容) ・日本下水道協会が主催する下水道排水設備責任技術者試験を通して責任技術者の登録及び管理 ・市下水道条例及び下水道排水設備工事店規則により、業者の申請に対し市長が指定を行う。又指定工事店指定の際に、厳守事項等の説明を徹底するとともに、指導に従わない工事店の停止処分も行う。						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							事業費計 (A)	0	
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B)	0
							トータルコスト(A)+(B)	0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

- ・指定店登録件数
- ・責任技術者登録数
- ・排水設備確認申請及び完了届件数

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

- ・下水道整備区域内の接続世帯

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

- ・生活環境の改善
- ・対象世帯が安心して下水道に接続できる

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

- ・水質が向上する

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 確認申請件数	件
イ 完了届(検査済)件数	件
ウ 指定店登録件数	件

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 接続世帯数	件

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 水洗化率	%

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 市内河川のBOD(測定地点)基準達成率	%

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円							
			事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0	0	0
	人件費		正規職員従事人数	人			4	7	7	7	7
			延べ業務時間	時間			1,650	1,650	1,650	1,650	1,650
			人件費計 (B)	千円	0	0	6,551	6,551	6,551	6,551	6,551
			トータルコスト(A) + (B)	千円	0	0	6,551	6,551	6,551	6,551	6,551
活動指標	アイウ	件			420	440	390	340	340		
		件			430	450	400	350	350		
		件			173	175	177	179	179		
対象指標	アイウ	件			430	450	400	350	350		
成果指標	アイウ	%			87.7	89	90	91	92		
上位成果指標	アイウ	%			100	100	100	100	100		

事務事業名	排水設備事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	--------	-----	-----	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 ・下水道管渠布設後、専門的な知識と技術者が従事する指定工事店で排水設備の工事を施工することにより、誤接続をなくし処理場の機能を軽減するとともに、使用料の確実な賦課を行うために開始した事業である。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
 ・以前は、排水設備確認申請及び完了届の速やかな届出がなされない指定店が見受けられたが、指定時に厳守事項等の説明を徹底すると同時に、指定店の処分規程を設けており、現在は悪質な指定店は見受けられない。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 ・特になし

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 ・優良な指定店の指定指導により、市民が安心して下水道に排水設備を接続することができて、生活環境の改善に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 ・公共性が高く民間での取りまとめはできない。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 ・対象、意図も現状であり適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ・排水設備未接続世帯があるので、接続の促進に向上の余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ・排水設備の無断接続等で、使用料の賦課漏れ及び雨水管等の接続により浄化センターに負担を掛け維持管理に影響を与える。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒(具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ・類似事業がない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・現在予算計上なし(職員給のみ)であり削減余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・削減の余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 ・市の組織運営や職員を対象に実施する内部事業である。

合志市

事務事業名	排水設備事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	--------	-----	-----	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

・排水設備未接続の世帯があり、水洗化率の向上に向けて未接続世帯に下水道の啓発に努める。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

・排水設備未接続世帯の洗い出しを行い、指定店と連携を取りながら水洗化に取り組み下水道使用料収入増加に取り組む。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

- ・高齢者世帯の理解(費用負担)がとれず排水設備工事ができない。
- ・老朽母屋の接続拒否(新築時に接続する?)。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項